

ぶんけい

教育ほっとにゅーず  
かわら版こみち  
教育の小径

6月号

2012  
JUNE  
No.44

今月のこぼ

おんこちしん  
温故知新

昔(過去)のことをよく学び、そこから新しい考え方や知識を得たり、新しい事態に対処したりすること。「故(ふる)きを温(たず)ねて、新しきを知る」とも言います。

今月の記念日

## 和菓子の日(6月16日)

全国和菓子協会が昭和54年(1979年)に制定しました。848年のこの日に、仁明天皇が16個のお菓子を神前に供え、疫病よけと健康を祈願したことによります。ちなみにお菓子の日は2月15日です。


 国士館大学教授  
北 俊夫先生
今月の  
テーマ

## 梅雨どきの生活指導

- 梅雨の季節には、思いも寄らない事故や怪我を引き起こすことがあります。これらを想定して事前に手を打つことが大切です。
- 食中毒が起こりやすい時期です。子どもたちには食物の扱い方について知識を身につけるとともに、食物に対する自己管理能力を育てます。

## 問われる担任の危機管理能力

わが国は6月に入ると、多少の時期や期間の違いはありますが、一部の地域を除いてじめじめした梅雨の季節になります。梅雨は稲作など農作業にとって恵みの水です。また、私たちに大切な飲料水を提供してくれます。

しかし一方で、この時期には、学校教育において生活指導上特に配慮すべき課題があります。

雨の日が続くと、子どもたちは屋内にいたことが多くなり、そのために思う存分に体を動かすことがどうしても少なくなります。運動不足になりがちです。このことがストレスを生み出す要因にもなります。心がイライラしてくると、友だちとのあいだで口論をしたり喧嘩になったりするなどトラブルを起こすことが多くなります。また、物に八つ当たりしたり、器物を損壊したりすることもあり、思わぬ怪我をすることもあります。

子どもたちに、特に休み時間の遊びや放課後の過ごし方について指導することは、梅雨どきの生活指導の重要な課題です。いま学校においても危機管

理が話題になっています。この時期の状況を踏まえ、起こりうる事故や怪我を予め想定し、それらをくい止めるために事前の手だてをとることは学級担任の重要な役割です。担任の危機管理能力が問われる場面でもあります。

## 過ごし方を子どもに考えさせる

6月の生活目標に「梅雨どきの過ごし方を工夫しよう」といった内容を掲げて、子どもたちに課題意識をもたせるとともに、注意を喚起している学級もあります。この目標を単なるお題目としてではなく、実効性のあるものにするためには、例えば次のような工夫をするとよいでしょう。

まず、学級活動の時間を活用して、子どもたちに雨の日の学校生活の過ごし方について話し合わせることです。具体的には休み時間における教室内の遊び方や過ごし方を考えさせます。子どもたちからは、ゲームを楽しむ、トランプをする、本を読むなどが出されるでしょう。どのような遊び道具を用意するか、学校に持ってきてよい道具は何かなど、教師間で事前に共通理解しておく必要があります。

また、雨の日には体育館で遊ばせることもできます。この場合、学校の子ども数の人数にもよりますが、学級や学年ごとの体育館の「使用割当表」を作成しておくといよいでしょう。

## 食中毒防止への注意喚起を

梅雨どきに発生しがちな課題に食中毒があります。高温多湿になると、細菌が発生しやすいからでしょう。

食事の前に手を洗うなど、いつでも手を清潔にすることを指導することはもちろん大切です。食物の保存の仕方や期限などに関心をもたせ、食物に対する自己管理能力を育てます。

こうした指導は、食の実践的な場である学校給食の時間に行うことができます。また、家庭科や体育科(保健領域)の授業でも、食物の扱い方や消費の仕方について基礎的な知識を意図的に身につけることができます。望ましい態度や行動は、正しい知識にもとづいて展開されるものです。

食中毒を防止するためには、学校が給食をつくる際に、また給食センターなどから搬入する際などに細心の注意をします。同時に、子どもたちや保護者に対しても、食中毒防止への注意を喚起することが大切です。



# 教えて北先生

## 転校してきた子ども

**Q.** 年度の途中に転校生が入ってきました。まだ友だちと馴染めません。時々寂しがっているときもあります。この子どもが早く学級に慣れるためには、担任としてどのようにかわったらよいのでしょうか。

**A.** 子どもが転校してきたときには、その子どもだけでなく、保護者の方も「早く慣れるだろうか」と不安感を抱いています。新しい学級に馴染めず、不登校になることもあります。学級担任の接し方や指導が重要になります。年度の途中などに転校生が入ってきたとき、その指導のポイントは次の二つです。

その一つは、転校してきた子どもへのかかわりです。子どもと面談します。できれば保護者も同席するとよいでしょう。そこでは学級や学校の様子を丁寧に話します。現在、学校生活に対して不安に感じていること、心配なことなど、どのような些細なことでもじっくり聞き取り、丁寧に説明します。

ここで重要なことは、子どもや保護者に安心感を与え、「この先生でよかった」と思えるような面談にすることです。面談は、転校当時だけでなく、その後も機会をみて行うようにします。

その二つは、学級の子どもたちに対する指導です。何より大切なことは、学級の一員として温かく受け入れる雰囲気と人間関係をつくることです。転校生がどのような悩みや不安を持っているか、転校生の立場を想像させ、どのように接したらよいかを考えさせます。何でも相談できる友だちを転校生に紹介する方法もあります。

## 教育の動向

### ライフプランの作成

これまでの学校教育でも、子どもたちに夢や目標をもって生活することの大切さを指導してきました。例えば、「学期の目標」を考えさせたり、将来の夢を語らせたりする取り組みです。

いま、子どもたちにライフプランを作成させる先生が増えています。ライフプランとは、個人の人生設計のことです。ライフプランを作成することによって、将来なりたい自分をイメージさせ、それに向かってい何をなすべきか、将来どのような課題を解決しなければならないかを明らかにすること

ができます。

人間はだれでも先のことが見えてくると、意欲的になります。子どもたちも目標を実現する筋道や課題が具体的にになると、目的意識をもって、毎日を意欲的に生きていこうとします。

ライフプランの作成は、社会のためにどのような貢献ができるかを考える機会にもなります。その意味で、いま課題になっているキャリア教育の取り組みでもあります。夢や目標を実現するためには、お金が必要になることにも気づきます。お金や金融に対する関心をもたせる機会にもなります。

ライフプランの作成は、一人一人に自己の生き方を考えさせる教育です。



## コラム 北先生の授業力向上術

### 「間違い」を教材に

教師は発問したとき「正しい答え」を期待しています。「間違ったことを言ってもいいんだよ」と発言の許容範囲を認めておきながら、期待している答えでないときには「ほかに!」と言って、切り捨ててしまうことが多いようです。これでは、子どもたちは自分の考えではなく、教師の考えている「答え」を先取りしようとする子どもたちの意識は萎縮してしまいます。

授業の場では、教師の期待している答えだけが出されるとは限りません。多様な考えや考え方が出されます。それらを調整しながらよりよい考えや考え方を導き出していくところに授業の醍醐味があります。その意味で、子どもの「間違った答え」が出されたとき

に、教師はそれにどう対処するか。教師の役割が問われる重要な場面です。

わたくしは間違った考え、他の子どもたちと違った意見を意図的に拾いだし、授業の展開に位置づけました。発言の内容を「もうひとつの教材」として活用したのです。これは予め用意された教材（ある教材）に対して、授業の場で登場した「なる教材」です。

教師が期待していない答えが出されると、つい切り捨てたりどぎまぎしたりしますが、「間違い発言」をよき教材としてとらえる度量の広さと、授業転換の好機として活用する力量を身につけたいものです。



## INFORMATION

### 新刊 なぜ子どもに社会科を学ばせるのか

社会科という教科の成り立ちと意義を改めて問う!

◎著者 北 俊夫  
◎定価 998円  
(本体950円+税)  
◎発行 株式会社文溪堂

A5判 104ページ



「教育の小径」の全てのバックナンバーをインターネットでお読みいただけます!

ダウンロードして印刷も可能です。お知り合いの先生にもぜひお勧めください。  
<http://www.bunkei.co.jp/2012/monthly.html>  
または「ぶんけい 教育の小径」で検索。

企画・編集：ぶんけい教育研究所  
発行：株式会社文溪堂  
発行日：2012年6月1日